



(上)全長約119mの東ゲートと(下)全長約150mの西ゲートでは船底天井の傾斜も異なっているが、外観イメージは共通になるよう配慮されている

大阪・関西万博

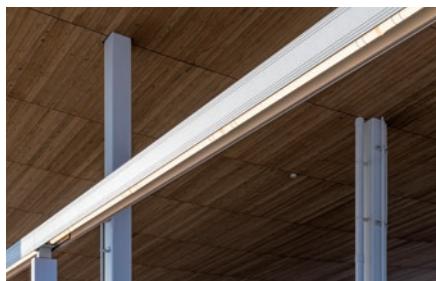
東ゲート／西ゲート

H型アームの上下に組み込んだライン照明で
ダイナミックな船底天井をライトアップ

Osaka Metro中央線夢洲駅に直結し、大階段を経て万博会場にアクセスする東ゲートは、鉄骨造で大スパン（長さ約119m）の木製船底天井を支えるハイブリッド構造。ゲートのH型アームにLEDライン照明を上下に組み込むことで、光源を目立たせずに木製天井のライトアップと入口床面のベース照度を確保している。照明計画にあたっては、基本設計の段階から参画し、シンプルな建築化照明によってライトアップ効果と安全な照度が確保できるかをライトニングフローで検証した。また、主にバスやタクシーなどにより多数の入場者が予想される西ゲート（長さ約150m）にも同様のデザインと照明手法が採用されており、外観イメージが統一されている。

東ゲート／西ゲート

■東ゲート
事業主／公益社団法人 2025年日本国際博覧会協会
設計／株式会社安井建築設計事務所
施工／大林組・大鉄工業・TSUCHIYA共同企業体
■西ゲート
事業主／公益社団法人 2025年日本国際博覧会協会
設計・施工／鹿島建設・飛島建設共同企業体

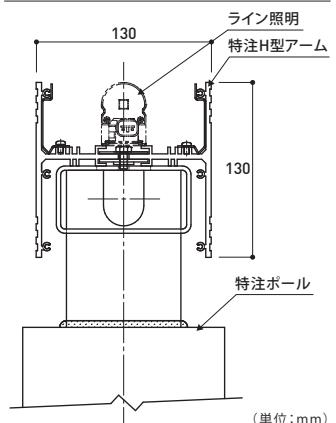


上下にLEDライン照明が組み込まれたH型アーム



東ゲート提案時の「ライトニングフロー」画面

特注器具断面図



主な納入設備

- 特注建築化照明器具